

# 四 半 期 報 告 書

(第69期第1四半期)

株式会社 アダストリア

茨城県水戸市泉町3丁目1番27号

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

頁

## 【表紙】

第一部 【企業情報】	1
第1 【企業の概況】	1
1 【主要な経営指標等の推移】	1
2 【事業の内容】	1
第2 【事業の状況】	2
1 【事業等のリスク】	2
2 【経営上の重要な契約等】	2
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	2
第3 【提出会社の状況】	4
1 【株式等の状況】	4
2 【役員の状況】	5
第4 【経理の状況】	6
1 【四半期連結財務諸表】	7
2 【その他】	13
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	14

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成30年7月13日

**【四半期会計期間】** 第69期第1四半期(自 平成30年3月1日 至 平成30年5月31日)

**【会社名】** 株式会社アダストリア

**【英訳名】** Adastria Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役会長兼社長 福田 三千 男

**【本店の所在の場所】** 茨城県水戸市泉町3丁目1番27号  
(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)

**【電話番号】** ー

**【事務連絡者氏名】** ー

**【最寄りの連絡場所】** 東京都渋谷区渋谷2丁目21番1号 渋谷ヒカリエ (東京本部)

**【電話番号】** (03)5466-2010 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 経理部長 林 暁 仁

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第 1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第68期 第1四半期 連結累計期間	第69期 第1四半期 連結累計期間	第68期
会計期間	自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日	自 平成30年3月1日 至 平成30年5月31日	自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日
売上高 (百万円)	54,066	51,392	222,787
経常利益 (百万円)	3,892	1,358	5,428
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	5,220	239	863
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,277	46	△1,966
純資産額 (百万円)	56,944	50,439	51,030
総資産額 (百万円)	95,422	90,218	91,123
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	110.97	5.08	18.36
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	59.7	55.9	56.0

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は「株式付与E S O P信託」及び「役員報酬B I P信託」を導入しております。株主資本において自己株式として計上している信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
5. 第68期連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、第68期第1四半期連結累計期間の関連する主要な経営指標等について、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、平成30年3月1日付で当社のバンヤードストーム事業及びバビロン事業を当社の連結子会社である株式会社エレメントルールに承継する吸収分割を実施しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

##### 連結業績

	平成30年2月期 第1四半期 連結累計期間 (平成29年3月1日から 平成29年5月31日まで)	平成31年2月期 第1四半期 連結累計期間 (平成30年3月1日から 平成30年5月31日まで)	増減	増減率
売上高 (百万円)	54,066	51,392	△2,673	△4.9%
営業利益 (百万円)	3,833	1,278	△2,554	△66.6%
経常利益 (百万円)	3,892	1,358	△2,534	△65.1%
親会社株主に帰属 する四半期純利益 (百万円)	5,220	239	△4,981	△95.4%
EBITDA (百万円)	6,004	3,387	△2,616	△43.6%
のれん償却前EPS (円)	123.55	17.21	△106.34	△86.1%

当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高が513億92百万円（前年同期比4.9%減）、営業利益が12億78百万円（前年同期比66.6%減）、経常利益が13億58百万円（前年同期比65.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益が2億39百万円（前年同期比95.4%減）となりました。

また、EBITDAは33億87百万円（前年同期比43.6%減）、のれん償却前EPSは17.21円（前年同期比86.1%減）となりました。（※）

前期に実施した米国Velvet, LLCの連結子会社化に伴う売上の寄与や「ニコアンド」の台湾進出効果により、海外売上高は44.8%の増収となりましたが、国内売上高が、「ニコアンド」以外のブランドの苦戦により前年同期比7.5%の減収となった結果、連結売上高は前年同期比4.9%の減収となりました。国内が低調だった要因としましては、4月中旬から投入した夏物商品の売れ行きが不芳だったことに加え、5月の一時的な天候悪化の影響を受けたことによります。

店舗展開につきましては、39店舗の出店（海外は出店無し）、24店舗の退店（内、海外10店舗）などの結果、当第1四半期連結累計期間末における当社グループの店舗数は、1,518店舗（内、海外116店舗）となりました。

収益面につきましては、在庫の消化促進による値下げ率の上昇などから、売上総利益率は57.4%（前年同期比2.0ポイント減）と低下いたしました。

販売費及び一般管理費につきましては、EC関連の販促費用の増加や配送単価上昇に伴う配送費の増加などもあり、全体としては前年と同じ水準で推移した結果、販管費率は55.0%（前年同期比2.7ポイント増）となり、営業利益率は2.5%（前年同期比4.6ポイント減）となりました。

特別損益につきましては、特別損失として、店舗の減損損失2億40百万円を計上いたしました。

なお、平成30年3月1日付で、当社のバンヤードストームとバビロンの2事業を当社の連結子会社である株式会社エレメントール（以下、ER社）に承継する吸収分割を実施いたしました。両事業のターゲットがER社の注力するセレクトマーケットに近い位置づけにあることから、これらをER社に集約することにより、同マーケットにおいて当社グループとして一層存在感のあるポジションの確立を図るものであります。

(※) 平成26年2月期以降、現預金の流出を伴わない費用であるのれん償却額の影響により、キャッシュフローの増減と、営業利益以下の利益項目の増減に大きな乖離が発生しております。また、各国の会計基準によって計上方法が異なるため、海外企業との適切な比較も困難になっております。これらの点を考慮し、「EBITDA」及び「のれん償却前EPS」を参考指標として開示しております。

「EBITDA」

営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額（販管費）

「のれん償却前EPS」

（親会社株主に帰属する当期純利益 + のれん償却額（販管費、特別損失） + 減損損失（のれん））

÷ 期中平均株式数

## (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて、9億4百万円減少して902億18百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が35億64百万円、たな卸資産が18億35百万円、店舗内装設備が6億82百万円増加した一方で、現金及び預金が70億36百万円減少したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて、3億13百万円減少して397億78百万円となりました。これは主に、未払金が21億87百万円増加した一方で、電子記録債務が15億85百万円、賞与引当金が9億53百万円それぞれ減少したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べて、5億90百万円減少して504億39百万円となりました。これは主に、利益剰余金が4億74百万円減少したことによるものです。

## (3) 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等

当第1四半期連結累計期間において、経営方針、経営環境及び対処すべき課題等について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年7月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	48,800,000	48,800,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	48,800,000	48,800,000	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年3月1日～ 平成30年5月31日	—	48,800,000	—	2,660	—	2,517

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成30年2月28日)に基づく株主名簿による記載をしております。

### ① 【発行済株式】

平成30年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,203,900	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 47,381,800	473,818	—
単元未満株式	普通株式 214,300	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	48,800,000	—	—
総株主の議決権	—	473,818	—

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄には、証券保管振替機構名義の株式が700株含まれております。  
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数7個が含まれております。  
2. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、「株式付与E S O P信託」及び「役員報酬B I P信託」の信託財産として保有する当社株式555,900株(議決権の数5,559個)が含まれております。

### ② 【自己株式等】

平成30年5月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社アダストリア	茨城県水戸市泉町 3丁目1番27号	1,203,900	—	1,203,900	2.46
計	—	1,203,900	—	1,203,900	2.46

- (注) 1. 上記以外に自己名義所有の単元未満株式75株を保有しております。  
2. 「株式付与E S O P信託」及び「役員報酬B I P信託」の信託財産として保有する当社株式は、上記の自己株式等には含めておりません。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成30年3月1日から平成30年5月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成30年3月1日から平成30年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

# 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	19,446	12,409
受取手形及び売掛金	8,810	12,375
たな卸資産	18,073	19,908
その他	3,570	3,642
貸倒引当金	△116	△140
流動資産合計	49,785	48,195
固定資産		
有形固定資産		
店舗内装設備(純額)	7,301	7,983
その他(純額)	5,022	5,423
有形固定資産合計	12,324	13,406
無形固定資産		
のれん	1,959	1,373
その他	4,255	4,537
無形固定資産合計	6,214	5,910
投資その他の資産		
投資有価証券	1,101	1,030
敷金及び保証金	18,263	18,122
その他	3,711	3,822
貸倒引当金	△278	△270
投資その他の資産合計	22,799	22,705
固定資産合計	41,338	42,022
資産合計	91,123	90,218
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,227	9,970
電子記録債務	9,898	8,313
短期借入金	2,657	2,775
未払金	9,418	11,605
未払法人税等	1,322	1,337
賞与引当金	2,413	1,460
ポイント引当金	698	995
事業整理損失引当金	1,141	1,072
その他の引当金	140	297
その他	527	609
流動負債合計	38,446	38,437
固定負債		
引当金	346	218
その他	1,299	1,121
固定負債合計	1,645	1,340
負債合計	40,092	39,778

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,660	2,660
資本剰余金	7,227	7,227
利益剰余金	45,245	44,770
自己株式	△4,652	△4,575
株主資本合計	50,480	50,082
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	235	166
繰延ヘッジ損益	△76	4
為替換算調整勘定	391	186
その他の包括利益累計額合計	550	357
純資産合計	51,030	50,439
負債純資産合計	91,123	90,218

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年5月31日)
売上高	54,066	51,392
売上原価	21,976	21,870
売上総利益	32,089	29,521
販売費及び一般管理費	28,255	28,243
営業利益	3,833	1,278
営業外収益		
受取配当金	33	2
為替差益	—	60
受取家賃	28	25
その他	94	89
営業外収益合計	156	176
営業外費用		
支払利息	5	8
持分法による投資損失	21	—
デリバティブ評価損	22	59
賃貸収入原価	24	23
その他	23	5
営業外費用合計	97	96
経常利益	3,892	1,358
特別利益		
投資有価証券売却益	4,373	—
特別利益合計	4,373	—
特別損失		
減損損失	73	240
特別損失合計	73	240
税金等調整前四半期純利益	8,191	1,117
法人税、住民税及び事業税	3,035	1,138
法人税等調整額	△64	△259
法人税等合計	2,971	878
四半期純利益	5,220	239
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,220	239

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年5月31日)
四半期純利益	5,220	239
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,996	△69
繰延ヘッジ損益	△23	80
為替換算調整勘定	77	△204
その他の包括利益合計	△2,943	△193
四半期包括利益	2,277	46
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,277	46
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年5月31日)
減価償却費	1,621百万円	1,576百万円
のれんの償却額	591百万円	570百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年4月4日 取締役会	普通株式	1,903	40	平成29年2月28日	平成29年5月10日	利益剰余金

(注) 平成29年4月4日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金22百万円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年3月1日 至 平成30年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年4月4日 取締役会	普通株式	713	15	平成30年2月28日	平成30年5月9日	利益剰余金

(注) 平成30年4月4日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金8百万円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)

当社グループは、衣料品並びに関連商品の企画・販売を単一の報告セグメントとしております。その他の事業については、量的に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成30年3月1日 至 平成30年5月31日)

当社グループは、衣料品並びに関連商品の企画・販売を単一の報告セグメントとしております。その他の事業については、量的に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## (企業結合等関係)

(比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し)

平成29年4月18日に行われたVelvet, LLCとの企業結合について、前第1四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。この結果、前第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書は、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益がそれぞれ163百万円減少しております。

## (共通支配下の取引等)

### 1. 取引の概要

#### (1) 対象となった事業の名称及びその事業の内容

事業の名称：当社のバンヤードストーム事業及びバビロン事業

事業の内容：衣料品・雑貨等の企画・販売

#### (2) 企業結合日

平成30年3月1日

#### (3) 企業結合の法的形式

当社を分割会社とし、当社の100%子会社である株式会社エレメントルールを承継会社とした吸収分割方式です。

#### (4) 結合後企業の名称

株式会社エレメントルール（当社の連結子会社）

#### (5) その他取引の概要に関する事項

当社事業のうちバンヤードストーム事業及びバビロン事業のポジションは、株式会社エレメントルールが手掛けるセレクト系マーケットに近い位置にあり、同2事業と株式会社エレメントルールが統合することにより、ブランド価値を向上させ、セレクト系マーケットにおいて、より存在感あるポジションの確立とグループポートフォリオの拡充を推進するものです。

### 2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	110円97銭	5円08銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	5,220	239
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	5,220	239
普通株式の期中平均株式数(千株)	47,042	47,043

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。  
1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前第1四半期連結累計期間555千株、当第1四半期連結累計期間551千株であります。
3. 前第1四半期連結累計期間の1株当たり四半期純利益金額は、「注記事項(企業結合等関係)(比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し)」に記載の見直しが反映された後の金額により算定しております。

2 【その他】

当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結会計期間終了後四半期報告書提出日までの間の配当については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(株主資本等関係)」に記載のとおりであります。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年7月10日

株式会社アダストリア  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 篠原孝広印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 齋藤毅文印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 菊池寛康印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アダストリアの平成30年3月1日から平成31年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成30年3月1日から平成30年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年3月1日から平成30年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アダストリア及び連結子会社の平成30年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。

**【表紙】**

**【提出書類】** 確認書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の8第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成30年7月13日

**【会社名】** 株式会社アダストリア

**【英訳名】** Adastria Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役会長兼社長 福 田 三 千 男

**【最高財務責任者の役職氏名】** ー

**【本店の所在の場所】** 茨城県水戸市泉町3丁目1番27号  
(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)  
東京都渋谷区渋谷2丁目21番1号 渋谷ヒカリエ (東京本部)

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役会長兼社長福田三千男は、当社の第69期第1四半期（自平成30年3月1日 至平成30年5月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。